

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 久住高原農業 高等学校	
学校教育目標	揺るぎない希望を抱き、高い誇りと何事にも打ち克つ強い意志を持ち、地域の文化・経済の発展の担い手としてたくましく生きる農業人材を育成する。 ～小さな学校の大きな希望～			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・県内唯一の農業単独校として校長の強力な指導下で実践教育を推進し、生徒の着実な成長と実績を築いている。 ・明確なビジョンのもと、校長をリーダーとして学校教育目標の達成に向けた組織的活動が展開されている。 ・校長交代を見据えた組織・社会との連携強化を図り、独自性ある高校として持続的な体制が整備できている。	・体験的な活動により習得した知識・技術と教科における到達目標を明確にするため、事前事後の自己評価を実施し、教科との関連性を的確に指導するとともに生徒たちに意識させる。 ・学校運営協議会を中心とした地域・社会との連携の更なる強化を図る。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・学力差に応じた指導や課題への真摯な対応によりPDCAが機能し、着実な成果を上げている点は高く評価できる。 ・重点目標を定量的に管理しPDCAを回す一方、予期せぬ課題に対応できる対応人材の育成が急務と思われる。 ・管理職と分掌主任等の疎通が円滑で、学校目標に基づき生徒の状況に合わせた指導が組織的になされている。	・互見授業による他者評価の継続実施とともに、互見授業時の自己評価を実施、両者をすり合わせ自身の授業改善を実施する。 ・生徒アンケート、保護者アンケート内容の検討の実施及び特に保護者アンケートの回収率向上のために、紙によるアンケートに加え、Googleフォーム等の活用も行う。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・一人一地域研究等の地域連携を通じ、生きた教育を展開。成果発表は周知と生徒の自信に繋がり、評価できる。 ・校外学習や生産・販売プロセスの実践等、学外との連携が図られ、教育成果の周知にも繋がっており評価できる。 ・外部委託による広報は効果的だが、日常の学習や生活も発信し、リアルな魅力で生徒募集を強化してほしい。	・各種学校行事の報道や各種連絡事項の連絡に学校HPや39メールを活用し、生徒、保護者、地域や中学生等の受験希望者が、つねに学校の動きを知る事ができ、本校への興味関心が高まるように工夫しながら、随時その内容の改善を実施する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・少人数教育の利点を活かし、マンツーマンに近い体制で全般的に対話的な学びが実践できている点を評価する。 ・特徴的な農業実習や一人一課題研究は、生徒の主体性を育み自信に繋げる貴重な経験であり、高く評価できる。 ・遠隔や双方向授業等の少人数教育は好評だが、遠隔授業における相談体制の適切なフォローアップを期待する。 ・朝学習へのICT導入と教員研修実施は評価できる。今後は生徒の実感を踏まえ、効果検証と改善を期待したい。	・本校における問題点の一つである基礎学力の向上については、小中学校において学ぶべき基本的な学習内容を、朝学習(サイレントタイム)や放課後の自学自習の時間を活用して定着させる。 ・生徒個々に応じるICTを活用した基礎学力の定着と紙媒体を活用した学習形態の定着を図る。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・定期的なアンケートや声かけ等、相談しやすい環境と迅速な対応体制を評価する。今後も継続的な面談を望む。 ・竹田市と密に連携し、寮の部屋割りや支援体制の充実、適切な指導介入ができる体制を構築しており評価できる。 ・生徒会要望に対して、納得感のある丁寧な回答がなされており、必要な改善が図られていることは高く評価できる。	・現在実施している対応策や生徒への指導を継続するとともに、随時その改善を実施する。 ・竹田市と連携した生徒の指導や情報共有体制の更なる強化を図る。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・実習時の機器操作や熱中症への安全指導が、組織的に細心の注意を払ってなされており、高く評価できる。 ・実習場や園路等、危険箇所へのサイン設置や掲示による視覚的な注意喚起の改善が図られた点は評価できる。 ・避難訓練の実施を含め、安全対策や危機管理体制が適切に構築されており評価できる。 ・視聴覚教室の空調整備を評価できる。園芸実習室等、屋外活動と運動した施設のエアコン完備も期待したい。	・月に一度、安全衛生委員会を実施しているが、加えて生徒の安全対策や施設設備の危険場所を随時安全衛生委員会や運営委員会にも取り上げ、早期改善を図る。 ・農場での実習を中心とした安全教育の継続的な実施に努める。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・少人数で分掌を担う多忙な環境下、管理職との良好な疎通により、見通しを持った効率的な業務遂行を評価する。 ・面倒見の良さや多忙な校外活動を両立しつつ、ICT活用や有休消化等の働き方改革が進んでいる点は評価できる。	・働き方改革をさらに推進するためにも、校務分掌の改善・内部改革を行うとともに風通しの良い職場を目指す。
	学校課題の解決に向けた取組等	○定員確保 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・定員確保は継続課題だが、充実した農業教育と情報発信により、地元からの進学者の安定確保を実現している。 ・動画活用等の広報は効果的である。全国募集枠の活用や中学校へのキャリア教育を通じ、生徒獲得を期待する。	・基礎学力の向上については、小中学校において学ぶべき基本的な学習内容を、朝学習(サイレントタイム)や放課後の自学自習の時間を活用し定着させる。 ・少人数のコース編成による学力の向上に努めており、課題の精選及びその事後指導を徹底して行う。 ・全国からの生徒募集に向けた、HPやFBを活用した広報活動の充実と地元メディアを活用したPRIによる地元中学生の獲得を目指す。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・県内唯一の農業単独校として、地域・企業と連携した少人数教育を推進し、生徒の興味と自律を促す実践を展開している。 ・全国規模のコンテスト受賞や外部発信の場を多く得ており、その取組が全国的な評価に繋がっている点は高く評価できる。 ・実践教育、課題研究棟を通じて、農業が好きな生徒が生き生きと学校生活を楽しんでおり、高く評価できる。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の第三者評価の指導講評の中で「この学校の取り組みは先駆的な取り組みであり、今後も推進していただきたい。」と言われ、本校の取組への理解者が増えたことを心強く感じた。本校では学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の委員をはじめ、多くの公的機関や企業、地元の農業関係者と連携して教育力向上に努め、特に生徒が農業を好きになる教育に取り組み、農業関係の進学、就職(就農)への進路決定の向上を果たすことができた。しかし、今回指摘されたように本校では「基礎学力の向上」や「生徒募集」に問題を抱えている。 ・学力の向上については、入学してくる生徒の学力幅が大きくなっており、国語・数学・英語における習熟度別授業の継続と遠隔配信授業の活用による少人数制の授業展開で学力向上に取り組む。また、朝学習(サイレントタイム)において、新聞記事を活用した読解力を身に着ける取り組みを図る。さらに個々の能力に応じた基礎学力定着に向けた「Classi」導入の効果を検証し、放課後の個別指導につなげていきたい。入学定員の確保については、ホームページやフェイスブックを活用した広報活動を中心に、各所の大分県事務所および大分県人会からの協力を得ながら、生徒募集活動を推進していきたい。 			